

注 記

この写真は、昭和 29 年（1954 年）11 月 24 日に催された東京地学協会創立 75 周年記念式典の写真である。前日には記念講演会も開催された。

創立 75 周年記念式典等の概要

（イ）講演会

場所：科学博物館講堂

日時：昭和 29 年 11 月 23 日 午後 1 時半～4 時

内容：最近の天気予報 気象研究所 荒川秀俊

最近の中国視察について 中央气象台 和達清夫（注参照）

出席：約 350 名

（ロ）記念式典

場所：旧赤坂離宮羽衣の間

日時：昭和 29 年 11 月 24 日 午後 2 時～5 時

内容：会長あいさつ、功労者の表彰、文部大臣及び各学会祝辞、プルー博士への賞牌贈呈、ティーパーティー

出席：約 70 名（外国人 5 名）

（地学雑誌 63 236）

注）中国訪問学術文化視察団

昭和 29 年になると、中華人民共和国から「10 月 1 日の中国国慶節に、日本から各界代表を招待したい」との電報が届き、学習院院長の安倍能成を団長とする 15 名の「中国訪問学術文化視察団」が北京をおとずれています。

視察団には、和達清夫中央气象台長が含まれており、和達台長は、ローマで開催されていた地球物理学の国際会議から直接中国入りしています。そして、ローマの宿で見た、洞爺丸台風により 1500 人の命が失われたという新聞のトップ記事をうけ、強い決意で 10 月 11 日の周恩来総理の代表団との会見で、中国の毎日の気象放送を熱望することについて理解と配慮とを得たいむねを願う発言をしています。

周総理からは原則的に理解ある言葉がありましたが、中国の直面している情勢から、今のところ非常に困難であり、将来への期待を持つということで話は終わっています。

しかし、和達台長の発言は無駄にはなりません。国際社会に対する応分の責任を果たそうとする中国人民共和国の考えがあったのかもしれませんが、昭和 31 年 6 月 1 日、日本の気象記念日の日に、突然各地の気象観測資料をヒラ文で放送し始めています。

戦後日本の天気予報がよく外れるのは「中共の気象資料がないからだ」とも言われたほどなので、中央气象台は大喜びで、気象放送の傍受を始めています。

ウェブサイト記事「饒村曜（2016）気象災害の死者を減らすため、日中国交回復前から気象情報を中国からもらっていた」より

<https://news.yahoo.co.jp/byline/nyomurayo/20160929-00062680/>：2019.8.29 閲覧

同様の記事が東京都の文書にもある。

二十九年秋、こんどはローマでの国際会議の帰途、中国に立ち寄った。日本としては是非とも中国大陸の気象情報が欲しい。そこが空白だと、日本国内での予報は難しいのだ。そのことを、直接、周恩来首相にお願いした和達さんだったが、当時は中国側は台湾との問題もあって、大陸の気象情報を国際基準に従って放送することに難色を示した。そのため、日本側の希望は直ちには実現しなかったが、一年後には、それも実現できた。

東京都生活文化局コミュニティ文化部（1986）名誉都民小伝 130p 26